

◆ 販売物情報 ◆

大会公式プログラム

1部/1000円(税込)

出場全大学の登録選手の紹介や、過去の大会の記録など、
インカレを楽しむための情報が盛りだくさん!!
そして巻頭対談ではJリーグで今季 MVP と J1 得点王と
J1 ベストイレブンを獲得した小林悠選手(川崎フロンターレ)と
総理大臣杯覇者の法政大学の主将関口亮助選手の対談を掲載。
各会場のプログラム販売所にてご購入いただけます。

【プログラム表紙】



★ I PLAY FOR PHOTO BOOK ★

1冊 500円

インカレ出場全大学の選手・スタッフが伝えたい
想い「I PLAY FOR...」を写真と共に紹介します。
冊数限定なのでご購入は早めにお求めください。

☆ ユニフォーム型ストラップ ☆

1個 500円

出場全大学のユニフォーム型ストラップ。
第66回大会にちなんで、
「66th All Japan Championship」の特別仕様。
観戦の記念に是非。

【決勝 12/24】 Jクラブ内定者サイン会開催

関東大学サッカーリーグ戦からJリーグクラブへの来季加入が内定した選手のサイン会を開催します!
また、同イベント会場におきまして、内定者の名前と背番号入りのユニフォーム型ストラップも販売。
どなた様もご参加いただけるイベントですので奮ってご参加ください!
未来のJリーガーたちの、貴重な大学時代のサインを逃すな!!

○日時: 12月24日(日) 決勝戦(12:00KICKOFF)の終了後

○会場: 浦和駒場スタジアム 場外広場

※決勝戦が延長戦に突入した場合はサイン会開始時間を繰り下げます。
※準決勝終了後にサイン会参加選手を発表します。直前に変更となる可能性もございますので、ご了承ください。
※内定者のユニフォーム型ストラップは当日のみの個数限定販売となります。

◆ Twitter: @JUFA_soccer

全会場・全試合リアルタイム速報



◆ Instagram: @Jufa Japan

大会期間中の感動の名シーンの振り返り



◆ 公式 HP
<http://www.jufa.jp/>

随時、情報をお知らせ



展望 OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM NO.1

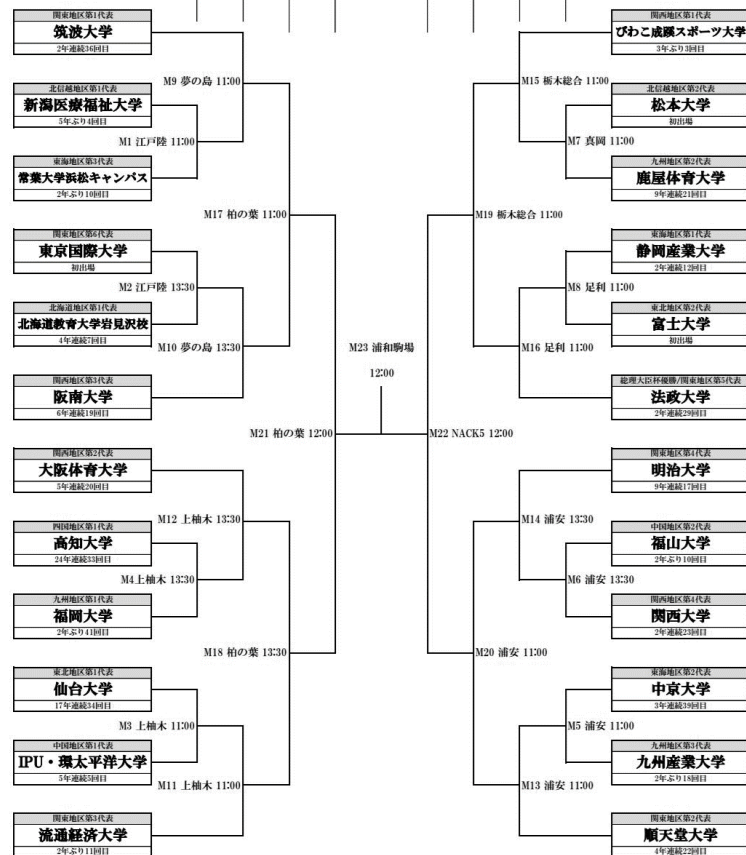
発行: 一般財団法人 全日本大学サッカー連盟
協力: 森田将義、内藤悠史



平成29年度 第66回全日本大学サッカー選手権大会



1回戦	2回戦	準々決勝	準決勝	決勝	準決勝	準々決勝	2回戦	1回戦
12月13日 (木)	12月16日 (日)	12月18日 (火)	12月21日 (金)	12月24日 (日)	12月21日 (金)	12月18日 (火)	12月16日 (日)	12月13日 (木)



筑波大学 新潟医療福祉大学 常葉大学浜松キャンパス 東京国際大学 北海道教育大学岩見沢校 阪南大学

文 森田将義

左上ブロックは、前年王者の筑波大学が頭一つ抜けた存在だ。昨年の栄冠を支えた。DF 鈴木大誠(3年)と小笠原佳祐(3年)が今年も健在で、関東リーグでは最少失点を記録。新潟内定のMF 戸嶋祥郎(4年)、磐田内定のFW 中野誠也(4年)が実力を擁する攻撃も、天皇杯で16強入りを果たすなど力は確か。FW 北川柊斗(4年)は「日本一が目標」と話す。

2回戦で筑波大と当たるのは、新潟医療福祉大学と常葉大学浜松キャンパスの勝者。新潟医療福祉大はインカレ初出場だが、プロからも注目されるFW 林純平(3年)や北信越リーグで2位の12得点を奪ったMF 矢村健(2年)など各所に実力者が揃う。目標をベスト8に掲げる佐熊裕和監督は「今まで積み重ねてきた成果を全て発揮する」と意気込む。

常葉大浜松キャンパスは、2年ぶりのインカレ出場だが、総理大臣杯で8強入りを果たしたように力は十分で、主将のMF 酢崎祥人(4年)は、「ベスト8の壁を超えること」を目標として掲げる。DF 渡邊翔太(4年)を中

心とした粘り強い守りから、MF 土井智之(2年)らが好機を活かすことができれば、目標達成も十分に可能だろう。

反対の山は、全日本大学選抜の主将を務めたMF 重廣卓也(4年、京都内定)、FW 山口一真(4年、鹿島内定)など攻撃陣にタレントが揃う阪南大学に注目だ。ハマった時の破壊力は全国でも屈指で、MF 脇坂泰斗(4年、川崎内定)は、「初戦独特の固さは多少あると思うが、阪南大らしい攻撃力が粉碎したい」とコメント。今季は無冠でタイトルに懸ける想いの強さもプラスに働くはずだ。

阪南大への挑戦をかけた東京国際大学と北海道教育大学岩見沢校の対戦も魅力十分。関東リーグ6位の東京国際大は、MF 安東輝(4年)と篠洋介(4年)の浦和ユース出身コンビを軸とした攻撃が光る。組織力が武器の例年とは違い、187cmの大型DF 重森剛司(4年)などのサイズと走力が売りの北海道教育大岩見沢校も、全国を驚かせる可能性を秘めた好チーム。東京国際大のDF 楠本卓海(4年)とのエアバトルも見どころの一つだ。

大阪体育大学 高知大学 福岡大学 仙台大学 IPU・環太平洋大学 流通経済大学

文 内藤悠史

上柚木ブロックでは、平成27年度大会を制した流通経済大学、そして26年度大会の王者・大阪体育大学が2回戦から登場する。両雄への挑戦権を懸け、1回戦には常連組がエントリー。初戦から激闘が期待できそうだ。

1回戦では、32校の中で最長の24大会連続出場を果たした高知大学と、2年ぶり出場の福岡大学が激突。ともに「ハードワーク」を標榜しており、激しいマッチアップが繰り返されるはずだ。C大阪加入内定のGK 永石拓海(4年)を擁する福岡大の守備陣を、四国リーグ得点王の高知大FW 勝田一秀(4年)がいかに攻略するか。フィジカル面では福岡大に分があるだけに、空中戦の攻防も鍵になりそうだ。

もう1試合では、仙台大学とIPU・環太平洋大学が対戦。MF 山田満夫(4年)が攻守の要として君臨する仙台大は、ディフェンスラインの背後を絶えず狙い続けるアグレッシブな姿勢が持ち味だ。ボールポゼッション率を高めて主導権を握り、ゴールを陥れたい。対するIPU・環太平洋大は中

国リーグ3連覇と、着実に地位を築いてきた。だが、インカレでは5年連続で無得点での初戦敗退。粘り強く戦って歴史を塗り替えたいところだ。

そして2回戦から登場するのでは、大阪体育大だ。前回大会では準決勝で打ち合いの末に敗れ、悔し涙を流した。リベンジに燃える今大会、主将DF 羽田昇平(4年)は目標を「日本一」と言い切っている。初戦シンドの難しさはあるだけに、まずは安定した形で試合に入りたいところ。DF 菊池流帆(3年)が迫力満点の空中戦とコーチングで守備陣を統率することだろう。

流通経済大は2大会ぶりの出場。今季は関東リーグ3位、総理大臣杯ではベスト4に終わり、インカレに懸ける思いは強い。仙台加入内定のFW ジャーメイン良(4年)、新潟内定のFW 渡邊新太(4年)を軸とするアタッカー陣が多彩な攻撃を仕掛け、川崎加入のMF 守田英正(4年)がゲームコントロールを司る。擁するタレントは大会屈指と言っていだろう。3大会ぶりの頂点を目指す戦いに注目だ。

びわこ成蹊スポーツ大学 松本大学 鹿屋体育大学 静岡産業大学 富士大学 法政大学

文 佐川貴子

文 森田将義

右上ブロックの主役候補は、総理大臣杯王者の法政大学と関西リーグ1位のびわこ成蹊スポーツ大学だろう。就任4年目の長山一也監督率いる法大は、DF 武藤友樹(4年、松本内定)とMF 紺野和也(2年)を中心としたサイド攻撃から、U-20日本代表のFW 上田綺世(1年)とディサロ燦シルヴァーノ(3年)がフィニッシュに持ち込むスタイルが必勝パターンだ。「最弱世代」という前評判を覆し、総理大臣杯で日本一に輝いた経験もプラス材料で、夏冬制覇も夢ではない。

関西リーグ王者のびわこ大も法大と張り合えるだけの力を持っている。元々、堅守が武器のチームだが、神戸内定のDF 宮大樹(4年)と、金沢内定のDF 山本義道(4年)が鎮座する今年の強度は例年以上。ボール奪取から素早く、長野内定のMF 堂安憂(4年)らが攻め立てる攻撃も破壊力十分で、今季は関西リーグ最多の47得点をマークする。3年前のインカレで超えられなかった準決勝越えも狙える好チームだ。

2チームへの挑戦権をかけた戦いは、地方の雄が揃い、予想が難しい。松本大学はインカレ初出場だが、鳥栖の監督を務めた岸野靖之監督氏の下、急速な成長を続ける注目校。「全国という舞台を楽しみたい」と話すエースのFW高橋隼人(4年)など実力派もおり、サプライズを起こす可能性はある。鹿屋体育大学も、湘南内MF 松田天馬(4年)を筆頭に、主将のDF 最上川祐輝(4年)やFW 藤本一輝(1年)など全国クラスのタレントが揃う。「不出場となった総理大臣杯の分まで頑張りたい」と最上川が口にするように、今年初の全国に懸ける気持ちもチーム力に反映されそうだ。

DF 諏訪部徹(3年)やFW 遠山拓民(3年)など要所に注目株が揃う東海リーグ王者の静岡産業大学も忘れてはいけない存在。諏訪部は「昨年の成績を上回る」と2回戦突破をターゲットに掲げる。初出場の富士大学は、「最後まで諦めない」をモットーに、チーム全員で一体感を持って戦うのが私たちの強み」(DF 伊藤仁也、4年)という武器を発揮し、初勝利を狙う。

明治大学 福山大学 関西大学 中京大学 九州産業大学 順天堂大学

文 内藤悠史

浦安ブロックの軸は、2回戦から登場の関東勢だ。第4代表の明治大学、第2代表の順天堂大学が準決勝進出に近い存在といえる。とはいえ、1回戦出場組も虎視眈眈と突破を狙う。

福山大学は中国リーグの2位に入り、インカレ出場権を獲得。4位までの3校が勝ち点で並ぶ大混戦で、得失点差の争いで制した。18試合68得点の攻撃力を武器に、全国の舞台でも旋風を巻き起こしたい。対する関西大学は前回大会で準々決勝に進出。主将FW 竹下玲玉(4年)は福山大の攻撃力を警戒しつつ、「ピッチ、ベンチ、スタンドが一体となって戦う」と強調。全員サッカーで7年ぶりの頂点を目指す。

1回戦のもう1試合では、中京大学と九州産業大学が激突する。中京大は2年連続でインカレ2回戦敗退。今大会ではベスト4を目指し、4年生主体のメンバーが丸一となって挑む。東海リーグでは得点数、失点数ともに2位。攻守に充実した戦いを見せた。対する九州産業大もリーグ22試合で21失

点と安定した守備を誇る。リーグ最多の7分を記録した粘り強さは、トーナメントでは強みになるはず。1点勝負の予感が漂う。

2回戦から登場する明治大は今季、3冠を目指していたが、リーグ戦では早々に優勝争いから脱落し、総理大臣杯では失意の準優勝。Jクラブ内定選手5名を誇るタレント集団は、不退転の決意で今大会に臨む。中心は浦和加入内定のMF 柴戸海(4年)と福岡内定の主将FW 木戸皓貴(4年)だ。特に木戸は過去2年、負傷離脱の影響でインカレを欠場。復活を遂げたエースのプレーに注目したい。

順天堂大はリーグ戦で筑波大学との一騎打ちに敗れ、準優勝となった。悲願のタイトル獲得へ、湘南内定の主将DF 坂圭祐(4年)は「良いチームから強いチームへ」と、結果を求める姿勢を強調。U-20日本代表のFW 旗手怜央(2年)は2回戦を欠場するが、FW 浮田健誠(2年)やMF 米田隼也(4年)らのアタッカー陣は個でも組織でも多彩な攻撃パターンを誇る。総理大臣杯では初戦敗退となっただけに、試合への入り方がカギになりそうだ。